

DIGITABLE 第70回勉強会レポート

2013年11月16日 於：江東区森下文化センター 第二研修室



テーマ：“DIGITABLE —これからの写真フロー—”

(午前：第2会議室) 記念勉強会 / DIGITABLE 会員発表

10:00-10:40 ・イギリス・デンマークの旅：済藤隆義

10:40-11:20 ・街で気になるもの：盛田真干子

11:20-12:00 ・インクジェットプリントの色調再現性調査 (概要)：安藤 和

(午後：第2研修室) 記念勉強会 / 協力企業セミナー

13:00-13:10 ・DIGITABLE の紹介：高木大輔 (DIGITABLE 代表)

13:10-14:10 ・ニコンデジタルカメラの技術と変遷：株式会社ニコン 映像カンパニー 後藤哲朗講師

14:10-14:40 ・プロ写真家会員による発表「Community (西の果てから)」：渡邊英昭 (DIGITABLE 同人)

14:50-15:50 ・インクジェット用紙の基礎講座：株式会社ピクトリコ 亀田尚道講師

16:00-17:00 ・なぜ写真を撮るのか？—写真を見る時の体験を考える—：白澤洋一講師：博士 (工学)

/ (株)アルファシステムズ

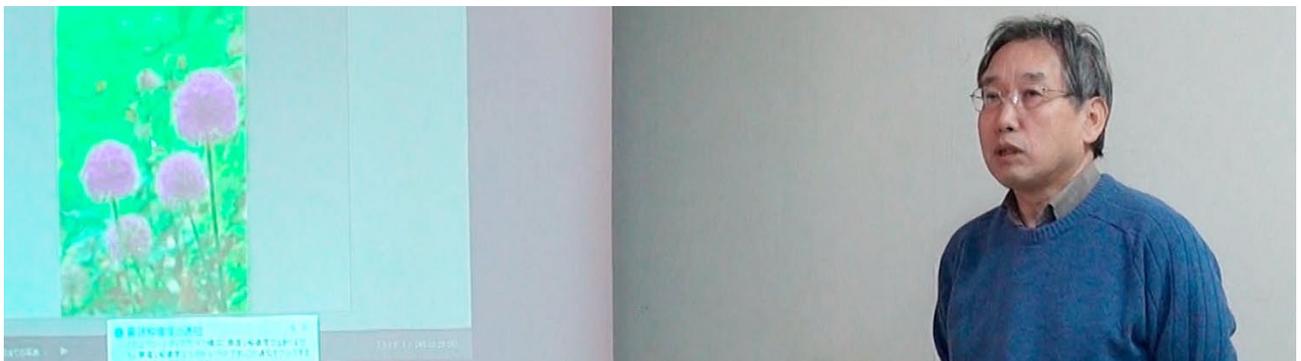
DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

DIGITABLE 2013 Excite と名付けられた今回の展示等勉強会の七周年を記念してのイベントで、会員の作品展示や、それぞれのテーマでのユニークな研究発表も展示された。

最終日の11月16日(土)は企業の協力も得て公開の記念勉強会が開かれ、“DIGITABLE —これからの写真フロー—”をテーマに会員4名による発表、及びメーカー企業による最新の技術セミナーも開催された。

(午前の部)

記念勉強会 / DIGITABLE 会員発表



・イギリス・デンマークの旅：済藤隆義会員

済藤氏は中学時代から写真に親しみ、特にフィルム時代から中判、大判カメラを使用したモノクロでのファインプリントの研究を続けてこられた。DIGITABLE には2009年度より参加、「デジタルのカラープリントは初心者」と仰りながらも以来 国内、国外各地での旅行記を含めた作品を披露してくださっている。今回は、ご夫婦でのイギリス・デンマークでの、ゆったり旅行記をスライドショー形式で発表。作品というよりは旅行記として、各地の初夏の風景・街角はもとより、人物や情景の爽やかな描写が勉強会の幕開けに相応しい。美しいスタンドグラスや、花や植物に対する優しい視点が特徴的で、各地で仲睦まじそうなカップルの写真も印象的だった。

デジタルカメラでは気楽に記録を取りながらの撮影を楽しみ、作品用には6×7のカメラも併用したそうで、早速そちらの作品も見てみたい気がした… (後略)



・街で気になるもの：盛田真干子会員

盛田さんは一眼レフでの撮影を始められたのは比較的最近ということで、DIGITADBLEには2011年度より参加。参加当初より、常に独自の視点でのユニークな発表を続けられ、DIGITADBLEのアート派の代表格である。今回の発表は街角の風景に、様々なオブジェが重なりが印象的な作品群で、一見するとデジタル作業での合成かと思ふばかりの完成度だが、「後加工の合成ではなく、多重露光を楽しみながら銀座を撮り歩いた…」とのことで、参加者からも驚きの声が上がっていた。印象的な作品は、大胆な構図と色彩の組み合わせが絶妙で、作者のしっかりした構想力と豊かな感性ならではのものであろう。プリントでの発表を囲む参加者の輪、各自が食い入るように見入っていた。



・インクジェットプリントの色調再現性調査（概要）：安藤 和会員

安藤氏はDIGITADBLEには2008年度より参加、以来 異国でのハイセンスな作品、や詳細なデータに基づいたプリントや色再現に関するさまざまな発表を続けている。今回の発表は、フォトショップ上でH S B表示で作成したカラーチャートを、種々の設定条件でインクジェットプリンターでプリント後、得られたプリントチャートを測色して「色相 (H)」、「彩度 (S)」、「明度 (B)」の変化を調べたもの。調査のポイントは

1. インクジェットプリンター4機種間、及び銀塩レーザープリンターとの差異
2. 画像調整ソフトに依る差異 (Adobe PhotoshopCS6、市川ソフトラボ SILKYPIX Pro5、NikonCapture NX2)
3. マッチング方法 (レンダリングインテント) による差異 (知覚的、相対的、絶対的)
4. 出力時の用紙、プリンタープロファイルに依る差異 (エプソン設定、自製)
5. プリント用紙の差異 (クリスピーア、写真用紙 (光沢)、写真用紙 (絹目調)、フォトマット (顔料専用))
6. プリント色調が設定色調から「ずれ」る原因について

についてで、それぞれの観点から詳細な報告がなされた。考察の全容はこの欄ではとても記載できないが、一例を挙げると1.0に関しては、『色相は4機種共、レッドとシアンはほぼ設定値に近いが、イエロー、グリーン、ブルー、マゼンタの4色相は何れも同じ方向に偏る。彩度については、4機種共、イエロー、グリーン、シアン、ブルーの4色は設定値より高くなり、低い設定彩度 (50 ~ 75%) でも飽和することがあるので注意が必要…』などと、プリントに悩む者には思わず納得の内容で、極めて貴重で質の高い発表になった。参加者のうち希望者には詳細なデータCDが配られたが、DIGITADBLEの会員には会員専用ページでこのデータを入手できるようになっている。

(午後の部)

記念勉強会 / プロ会員による発表



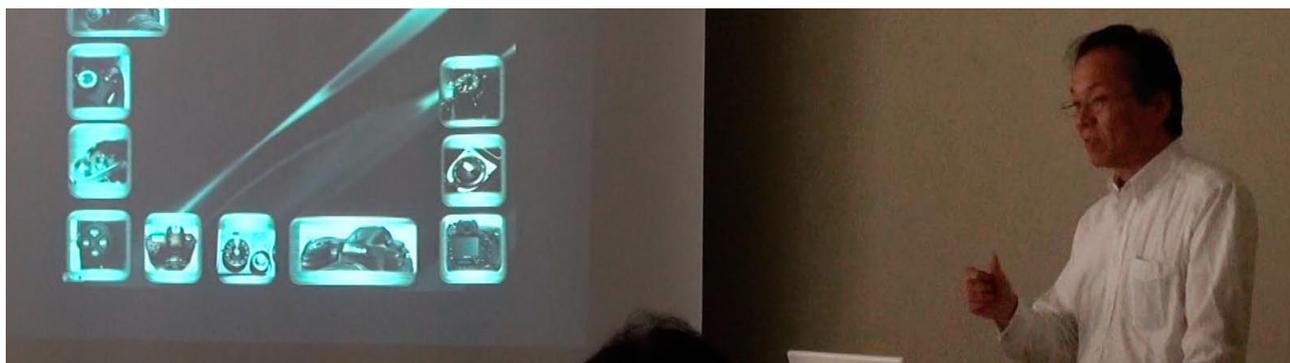
・ Community (西の果てから) : DIGITABLE 同人 渡邊英昭

渡邊英昭氏はヨーロッパ及びオーロラをはじめとする北欧の自然・文化など幅広く撮影を続けられている。JPS 及び APA 会員としての活動にも熱心で当会を代表するプロ側の会員である。今回も欧州での撮影を続けておられ、セミナーの前日に帰国された状況の中での発表。

今回の発表のテーマは、渡邊氏が長年撮影続けてこられたデンマーク自治領の定住人口わずか名という孤島で、夏のある時期、生活確保のため当該からの応援を得て渡り鳥の狩猟を行う物語である。

長年通い詰めて島民の信頼を得た渡邊氏ならではの作品で、厳しい生活環境と独特の風習の中暮らす島民と野鳥の闘いが、見る者の心に残る珠玉の発表となった。

記念勉強会 / 協力企業セミナー

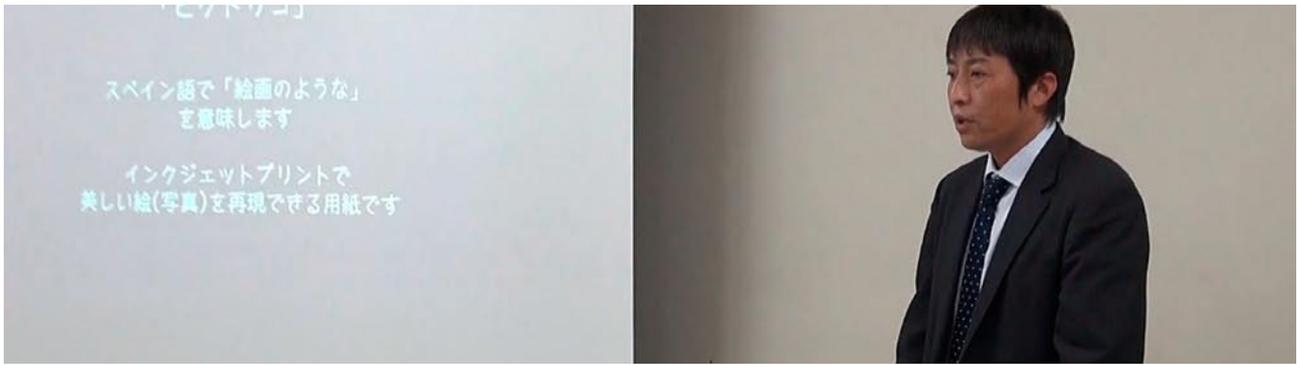


・ ニコンデジタルカメラの技術と変遷 : 株式会社ニコン 映像カンパニー 後藤哲朗講師

後藤氏は旧日本光学工業入社後、長らくカメラ設計部に在籍、さまざまな機種開発のプロダクトリーダーを務めてこられその後は、映像カンパニー開発本部長として、多くの製品開発を指揮。現在もニコン映像カンパニー 後藤研究室として、製品や技術に関する提案を行っており、おりしもこの勉強会当日が自ら提案、開発の主導的役割を果たしたした NikonDf の発表当日と重なることになり、セミナー開始前から参加者の話題になっていた。

セミナーは後藤氏の経歴紹介にはじまり、ニコン一眼レフカメラの歴史をレビュー。それぞれの開発当時のエピソードも交えて興味はつきない。さていよいよ後半は NikonDf の試用機を手に開発のコンセプトと詳細が語られた。Df の産みの親でもあるだけに、とうてい他では聞くことの出来ないだろう、ありがたいお話の数々…。試用機の参加者への回覧も含みながら、講師参加者一体となった熱い発表はあっという間に終了時間となった。





・インクジェット用紙の基礎講座：株式会社ピクトリコ 亀田尚道講師

渡株式会社ピクトリコ 営業統括部の亀田尚道氏を業務の傍ら数々のセミナーや各地でのプリントワークショップ等での講師活動を精力的に続けておられる。また今回の展覧会に花を添えるべく、昨年度ピクトリコフォトコンテストの優秀作品のご提供をいただいた。

セミナーにあたり詳しい資料とサンプルが提供された。はじめは印画紙の構造の説明からで、製紙段階の説明から描写の質を左右するインク吸収層の図解説明。ブランドグレードによる再現能力の違いもよく理解できた。また高品質なモノクロ表現のためのデジタルネガフィルム TOS100の詳しい説明。プラチナプリントを始めて耳にする参加者にもよく理解できたことだろう。また自宅では設備がない方のためのプラチナ・バナジウムプリントのラブサービスも開始されたとのこと。最後には参加者に嬉しい特典も用意されていた。



・なぜ写真を撮るのか？—写真を見る時の体験を考える—：白澤洋一講師：博士（工学）

白澤氏は(株)アルファシステムズに勤務され、顔画像、色彩情報などの研究を通じソフトウェアの開発に従事されている傍ら、工学博士として知覚情報処理・感性情報学などの研究者でもあり、数々の論文を発表、受賞歴もお持ちである。昨年の記念勉強会では(株)アルファシステムズでのソフトウェアの開発の立場からの講演をいただいたが、本年は個人の研究者として独自のテーマでの発表をお願いした。

私達は写真に囲まれて生活しているが、写真には、情報共有のために、表現のために、メッセージのために、記録のために、メモのために、説明のために…などさまざまな目的がある。また体験はどのように形付けられるかについて、さまざまなシーンの検証が紹介された。ところが今日では目的に応じて、それを表現するちょうど良い道具も変わるといえる。ならば写真を見る状況を考慮してデザインする必要があるだろう…という結論である。

あらためて、DIGITABLE が通常の写真教室にはとどまらない 非常にユニークな勉強会であることが、会員のみならず当日のビジター参加者にもお分かりいただけたと思われる。盛大な拍手の中、記念勉強会は終了した。

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>
